

# 日本語研修コース報告 (2015年4月～2016年3月)

田中 信之

## 1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。1999年10月に富山大学国際交流センターの前身である留学生センターが開設され、第1期日本語研修コースが開講した。2013年10月に留学生センターが改組、国際交流センターが設置され、2016年3月には第33期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生・教員研修留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2015年4月から開講した第32期と同年10月から開講した第33期について報告する。

## 2 受講者

第32期は、大使館推薦の国費研究留学生が3人、学内公募による私費留学生4人が受講した。私費留学生のうち1人が本人の都合でコースを辞退した。第33期は、文部科学省によって配置された国費教員研修留学生1人、教員研修留学生1人、学内公募による私費留学生4人が受講した。私費留学生のうち1人が病気のため、コースを辞退した。修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者 (第32期・第33期)

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
32	メリエム ハッタール	アルジェリア	富山大学 新田 淳美 教授
	センダ カルティカ ラカインサ	インドネシア	富山大学 森田 洋行 教授
	ジンス ドナルド ゲルピ アゴンマ	ベナン	富山大学 門脇 真 教授
	ファビオラ ラマ	アルバニア	富山大学 馬 駿 教授
	周 暁 希 (シュウ ギョウキ)	中 国	富山大学 林 直人 准教授
	範 霄 燕 (ハン ショウエン)	中 国	富山大学 垣田 直樹 教授
33	トン タイ	ミャンマー	富山大学 山根 拓 教授
	サウドゴ スウレイマネ マネド	ブルキナファソ	富山大学 金 奉吉 教授
	ライハン ナスール	中 国	富山大学 二階堂 敏雄 副学長
	アクタル ファテマ	バングラデシュ	富山大学 馬 駿 教授
	肖 建強 (ショウ ケンキョウ)	中 国	富山大学 チャビ ゲンツィ 教授

## 3 コース担当者

センター専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ サイモン ピーター，濱田美和）と、非常勤講師8人（加藤敬子，高島智美，中河和子，永山香織，藤田佐和子，松岡裕見子，山本百合子，横堀慶子）が授業を担当し、田中信之がコースのコーディネートをを行った。

## 4 コーススケジュール

第32期は、2015年4月9日（木）に開講式，同年9月25日（金）に修了式を，第33期は、2015年10月7日（火）に開講式，2015年3月3日（火）に修了式を行い，どちらの期も15週間75日の集中授業を

行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

#### <第32期>

2015年	4月6日(月)	学内公募選考
	4月7日(火)	コースオリエンテーション, 挨拶の練習, ひらがな
	4月9日(木)	開講式
	4月10日(金)	授業開始
	6月13日(土)～6月14日(日)	ホームステイ
	6月19日(金)	スタディー・エクスカージョン(富山市民俗民芸村)
	6月26日(金)	「私の国」発表会
	7月30日(木)	授業終了
	7月31日(金)～8月4日(火)	スピーチ練習, 文集作成
	8月5日(水)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
	9月25日(金)	修了式

#### <第33期>

2015年	10月5日(月)	学内公募選考
	10月6日(火)	コースオリエンテーション, 挨拶の練習, ひらがな
	10月7日(水)	開講式
	10月8日(木)	授業開始
	11月20日(金)	スタディー・エクスカージョン(射水市海王丸パーク等)
	12月5日(土)～6日(日)	ホームステイ・ホームビジット(12月5日のみ)
	12月18日(金)	「私の国」発表会
	12月23日(水)～2015年1月4日(月)	冬季休業
2016年	2月9日(火)	授業終了
	2月10日(木)～17日(水)	スピーチ練習, 文集作成
	2月18日(木)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
	3月3日(木)	修了式

## 5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った。初級クラスの「読解・作文」「聴解」「文字・漢字」「会話」の計4コマ、および、中級クラスの「文法」10コマと「漢字」「聴解」「会話」各1コマの合計13コマは日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である(後期より、日本語プログラムの全科目名を規則性のある新名称に整備されたため、以上の科目は、初級クラスは「読解・作文 A2」「聴解 A2」「漢字 A2」「会話 A2」、中級クラスは「文法・表現 B2」「文法・読解 B2」「文法 B2」「漢字 B2」「聴解 B2」「会話 B2」となった)。初級クラスの「文法(文法 A2)」については日本語課外補講においても同科目が開講されたため、日本語研修コースの授業の難度に合わない学習者はそちらを受講することも認めた。

また、通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

第32期は、受講者を日本語能力に応じて初級と中級の二つのレベルに分けて授業を行ったが、第33期は中級レベルの受講者がおらず、初級レベルの受講者のみであった。表2、3に第32期、第33期の時

間割を示す。

## 5.1 時間割

表2 第32期日本語研修コース時間割

	1 (8:45~10:15)		2 (10:30~12:00)		3 (13:00~14:30)		4 (14:45~16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤)	文法A (高島)	文法 (加藤)	文法A (高島)	読解・作文 (加藤)	漢字 (濱田)	特別指導 (濱田・小木曾)	特別指導 (田中)
火	文法 (田中)	文法B (松岡)	文法 (田中)	文法B (松岡)	聴解 (藤田)	コンピュータ (田中)	コンピュータ (濱田)	読解 (小木曾)
水	文法 (高島)	文法A (中河)	文法 (高島)	文法A (中河)	文字・漢字 (小木曾)	会話 (横堀)	日本事情 (バハウ)	
木	文法 (永山)	文法B (副島)	文法 (永山)	文法B (副島)	コンピュータ (田中)	聴解 (横堀)	語彙・作文 (横堀)	コンピュータ (濱田)
金	文法 (山本)	文法C (小木曾)	文法 (山本)	文法C (小木曾)	会話 (小木曾)	作文 (田中)	特別指導 (田中・小木曾)	特別指導 (濱田)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス，それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

表3 第33期日本語研修コース時間割

	1 (8:45~10:15)		2 (10:30~12:00)		3 (13:00~14:30)		4 (14:45~16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法A2 (加藤)	文法・表現B2 (高島)	文法A2 (加藤)	文法・表現B2 (高島)	読解・作文A2 (加藤)	漢字B2 (濱田)	特別指導 (濱田・小木曾)	特別指導 (田中)
火	文法A2 (田中)	文法・読解B2 (松岡)	文法A2 (田中)	文法・読解B2 (松岡)	聴解A2 (藤田)	コンピュータB2 (田中)	コンピュータA2 (田中)	読解B2 (小木曾)
水	文法A2 (高島)	文法・表現B2 (中河)	文法A2 (高島)	文法・表現B2 (中河)	漢字A2 (小木曾)	会話B2 (横堀)	日本事情A2/B2 (バハウ)	
木	文法A2 (永山)	文法・読解B2 (副島)	文法A2 (永山)	文法・読解B2 (副島)	コンピュータA2 (濱田)	聴解B2 (横堀)	語彙・作文A2 (横堀)	コンピュータB2 (濱田)
金	文法A2 (山本)	文法B2 (小木曾)	文法A2 (山本)	文法B2 (小木曾)	会話A2 (小木曾)	作文B2 (田中)	特別指導 (田中・小木曾)	特別指導 (濱田)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス，それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

## 5.2 日本語科目

基本的な日本語文法を習得し，運用できるようになること，文字についてもひらがなやカタカナ，基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

また，独自開発教材を用いて，正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト] (主なもののみ)

<初級クラス>

文 法 『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク)

(文法A2) 『みんなの日本語初級 I, II 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)  
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)

聴 解 『みんなの日本語初級 I, II 聴解タスク25』(スリーエーネットワーク)

(聴解A2) 『わくわく文法リスニング99』(凡人社)

- 『絵とタスクで学ぶにほんご』（凡人社）  
『にほんごきいてはなして』（ジャパンタイムズ）  
『楽しく聞こう』（凡人社）  
読解・作文 『みんなの日本語初級 I, II 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）  
（読解・作文A2） 『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）  
文字・漢字 『BASIC KANJI BOOK VOL.1 基本漢字500』（凡人社）  
（漢字A2）

<中級クラス>（第32期のみ該当）

- 文 法 A 『J. Bridge』（凡人社）  
文 法 B 『日本語中級 J301』（スリーエーネットワーク）  
『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）  
文 法 C 『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）  
漢 字 『BASIC KANJI BOOK VOL.2 基本漢字500』（凡人社）  
読 解 『テーマ別中級から学ぶ日本語ワークブック』（研究社）  
聴 解 『中級からはじめる ニュースの日本語 聴解40』（スリーエーネットワーク）  
『聞いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編 1』（くろしお出版）  
作 文 『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）

### 5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

### 5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

日本語のコンピュータ用語には漢字語やカタカナ語が多いため難解であったり、入力においても促音や拗音といった特殊音の入力が難しいなど、外国人が日本語環境のコンピュータを用いる際に特有な問題があるが、この授業ではそれを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

[参考テキスト] 『日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん』（スリーエーネットワーク）

### 5.5 口頭発表プロジェクト

#### 5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。教員研修留学生についても、このコースが終わると、教育に関するさまざまな授業を日本語で受けなければならないし、授業見学を通じて現場の教員とのやりとりが必要となる場面も多い。本コースでは、留学生

が日本の大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生はこれまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、それぞれ原稿とスライドを作成してスピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2 参照)。さらに、学生は発表原稿をもとにしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第32期、第33期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3 参照)。

### 5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第32期は2015年8月5日(水)に、第33期は2016年2月18日(木)に、それぞれ午後1時半より開催した。第32期は32人、第33期は22人の出席者があった。出席者は富山大学の留学生および日本人学生、学長および理事、学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学生のホストファミリー、国際交流課留学支援チーム職員などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。発表会に向けた準備は、語彙・作文とコンピュータの授業の中で行ったほか、3人の国際交流センター教員がそれぞれ分担した学生に対して、授業時間以外にも原稿チェック、発表練習などの指導を行った。

### 5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成したほか、それぞれの期の中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

## 6 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト(『みんなの日本語』)に基づく定期試験を7回実施した。この定期試験は、筆記試験(文法、作文、読解)、聴解試験、会話試験から構成されるものである(第33期は日本語のレベルによって、一部会話試験を受けない学生もいた)。また、「読解・作文」「文字・漢字」(後期は、「読解・作文 A2」「漢字 A2」)のクラスでは期末試験を実施した。中級クラスでは、「文法 A」・「文法 B」・「文法 C」においてテキストに基づく定期テストを実施した。また、「聴解」「漢字」のクラスではそれぞれ期末試験を実施した。

口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

## 7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるため、学期終了時にアンケート調査を実施している。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、アンケート調査票に記入してもらった。調査項目はコース全体、日本語の授業の内容、テスト、宿題、コンピュータ授業、特別指導、スタディ・エクスカッション、ホームステイ、日本事情、口頭発表プロジェクトの11項目である。回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがある。また、自由意見は日本語または英語で記入させた。

それぞれの期の結果を表4、表5に示す。自由意見については、英語で書かれたものは日本語に翻訳して、日本語の誤りがあるものは訂正して掲載する。翻訳・訂正ともにコーディネーターの判断によって行っている。

表4 第32期コース評価

質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほどよい評価であることを示す)	自由意見
<p><b>(コース全体)</b>            コースは役に立ったか： 5.0            スケジュールはどうだったか：                忙しすぎる3人、忙しい3人            日本語は上達したか：                とても上手になった1人、上手になった3名、                少し上手になった2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コースはとてもいいと思います。先生はしんせつで、わたしたちをたすけてくれました。</li> <li>• コースはとてもやくにたちましたが、いそがしすぎました。</li> <li>• たくさん授業があります。少しの授業がいいと思います。</li> <li>• コースが少し長いです。</li> <li>• にほんごコースのせんせいは、ともしんせつです。</li> <li>• ひょうげん、文法、日本語をよむ能力が上がりました。読めるかんじも増えました。本当に役に立ったと思います。</li> </ul>
<p><b>(日本語の授業)</b>            授業はどうだったか： 4.8            教科書はどうだったか：                『みんなの日本語』 5.0                『毎日の発音練習』 3.8                『BASIC KANJI BOOK VOL.1』 4.8                『J.brige ジェイブリッジ』 4.0                『日本語中級J301』『J501』 5.0                『中級へ行こう』 4.0            ハンドアウトはどうだったか： 4.5            教師の教え方はどうだったか： 4.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• じゅぎょうはとてもよかったです。『みんなのにほんご』もとてもよかったです。でも、はつおんはちょっとむずかしかったです。</li> <li>• ちょうかいのじゅぎょうはちょっとすこしです。</li> <li>• 授業はとてもおもしろくて、まいにちいろいろ勉強できました。先生はとてもよかったです。</li> <li>• 教科書とハンドアウトはとても役立ちました。日本文化がもっと紹介されていたら、もっとよかったです。</li> <li>• たくさんハンドアウトがあったので、ときどきせりりするのがむずかしいかもしれません。ちょうかいとかいわの先生がおなじで、さいしょは時々、どのハンドアウトがどのじゅぎょうなのかわからなくなりました。</li> </ul>
<p><b>(テスト)</b>            テストはどうだったか：                文法テスト 4.8                聴解テスト 4.4                会話テスト 4.8            中級のテスト 4.0            テストは多かったか：                多い2人、ちょうどいい4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いいとおもいます。</li> <li>• ふんぼうは ときどき むずかしかったです。ちょうかいは ときどき きこえませんでした。</li> <li>• ときどき前回のテストの問題がありました。例えば、今回のテストで「やりもらい」を勉強しましたが、次のテストでも、また同じ問題が出ていました。</li> </ul>

<p>(宿題) 宿題はどうだったか：4.7 宿題は多かったか： 多い3人，ちょうどいい2人，無回答1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•宿題はよかったが，実験などで忙しかったら，大変だろう。</li> <li>•ときどき たくさん しゅくだい が ありました。</li> <li>•多すぎであっても，勉強するには一番いい方法だと思う。</li> </ul>
<p>(コンピュータ授業) 授業は役に立ったか：4.8 ハンドアウトはどうだったか：4.7 教え方はどうだったか： 4.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•プレゼンテーションのため，よいスライドの作り方（例えば，アニメーションの使い方など）を授業に加えてほしい。</li> <li>•みな せんせい は とても しんせつです。とても忍耐強く，いつも私たちを助けてくれました。</li> </ul>
<p>(特別指導) 特別指導はどうだったか： 4.8 特別指導は多かったか： ちょうどいい3人，少ない2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•チュートリアルは，復習したり，休んだ日の課を勉強できたりして，とても役立った。</li> <li>•とくべつしどう は とても やくにたちました。</li> </ul>
<p>(スタディ・エクスカージョン) 見学は楽しかったか： はい5人，欠席1人 見学場所は適当だったか： はい5人，欠席1人 見学の時期は適当だったか： はい5人，欠席1人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•しぜん が たのしかった。</li> <li>•ぜんぶ が たのしかったです。</li> <li>•友達と先生と一緒に。</li> <li>•みんなでどこかへ行くだけで楽しかったです。</li> </ul> <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•もっと じかん が ほしかったです。</li> </ul>
<p>(ホームステイ) ホームステイは楽しかったか： はい6人 時期は適当だったか： はい4人，いいえ2人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•日本のぶんかのべんきょう，日本語ではなしました。</li> <li>•日本人の本当の生活を知ることができて，とてもおもしろかった。</li> <li>•おばあさんの和室へいくことがいちばんたのしかったです。</li> <li>•いろいろな場所へ行きました。</li> <li>•全部。</li> </ul> <p>ホームステイの時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•授業がほとんど終わるころがより良いと思います。ホームステイをしたとき，多くの日本人の言葉がわからなかったり，多くのことが理解できなかつたりしたからです。</li> <li>•平日。</li> </ul>
<p>(日本事情) 日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•たのしかったです。</li> <li>•日本人の学生はとてもすばらしく，いろいろたすけてくれました。</li> <li>•いい と おもいます。にほんじん と はなすと，よく ならえます。</li> <li>•いろいろなタイプの日本人がわかりました。オープンな人と，はずかしがりやの人がいるのがわかりました。それぞれのタイプに合わせなければなりません。</li> </ul>

<p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う 6 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この授業はとても楽しかったです。とてもおもしろい教え方で、日本文化や日本社会を理解することができました。とてもリラックスできました。大好きな授業です！</li> <li>• 日本にすんでいますから、日本のせいかつはしなければなりません。</li> <li>• ここで何年か住むので、できるだけ日本の生活に適應したい。</li> <li>• わたしたちはいま日本で勉強していますから。</li> <li>• はやく日本の生活に慣れます。</li> <li>• 日本文化を理解し、社会に溶け込むためには、日本人の習慣を習うのは重要です。</li> </ul>
<p>(口頭発表プロジェクト) プロジェクトはたいへんだったか： とてもたいへん 2 人, たいへん 4 人 発表会は役に立ったか： 4.2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このスピーチのじゅんぴはたいへんでした。ことばはとてもむずかしいですから。でも、スピーチはびょうかいはやくにたちました。</li> <li>• 大変でしたが、がんばりました。</li> <li>• じゅんぴはたいへんだったけど、いいいいけんです。せんせいもみないろいろおしえてもらいます。せんせいありがとう。</li> <li>• せんものことばをならいました。これはとてもいいですが、むずかしいです。</li> </ul>
<p>(その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本語のコースはいいとおもいます。わたしはとてもたすかりました。実験で忙しい他の学生にとって、このコースは大変だったと思います。先生は学生にそのことを知らせて、相談すべきです。でも、全体としては、このコースはとても有益です。センターのスタッフのみなさんも、とても親切でした。</li> <li>• じむのひととせんせいはとてもしんせつです。</li> <li>• 発表しないほうがいいです。</li> <li>• コースがもう少し長ければ、学習環境がより良くなると思います。</li> </ul>

表 5 第33期コース評価

<p>質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほどよい評価であることを示す)</p>	<p>自由意見</p>
<p>(コース全体) コースは役に立ったか： 4.8 スケジュールはどうだったか： 忙しい 3 人, ちょうどいい 2 人 日本語は上達したか： 上手になった 5 名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本でせいかつするとき、日本語をはなさなければなりませんから、コースはやくにたちました。</li> <li>• これからも日本語先生たちは、いろいろな国の語をべんきょうしたほうがいいとおもいます。感謝します。</li> <li>• コースのじゅぎょうは、あさ8:45から午後4:15までです。時間が長いので、私にとって、午後二番目の授業の時、ちょっと集中できませんでした。そして、コンピュータ教室の空気はよくないです。</li> </ul>

<p>(日本語の授業)</p> <p>授業はどうだったか： 5.0</p> <p>教科書はどうだったか： 『みんなの日本語』 5.0 『毎日の発音練習』 4.5 『(新版) BASIC KANJI BOOK VOL.1』 4.8</p> <p>ハンドアウトはどうだったか： 4.8</p> <p>教師の教え方はどうだったか： 4.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• よかったです。</li> <li>• 私は意見がないです。感謝します。</li> <li>• もっと教科書で勉強できない知識を勉強したいです。</li> </ul>
<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか： 文法テスト 4.8 聴解テスト 4.6 会話テスト 5.0</p> <p>テストは多かったか： 多い1人, ちょうどいい4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テストがあるので, たくさん れんしゅうできました。</li> <li>• 私はいいとおもいます。</li> <li>• ちょうかい の おとは ときどきよくなかったです。</li> <li>• 時々テストに勉強していない文法がでます。</li> </ul>
<p>(宿題)</p> <p>宿題はどうだったか：4.8</p> <p>宿題は多かったか： ちょうどいい5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• しゅくだい があるので, ふくしゅうできました。</li> </ul>
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか：4.6</p> <p>ハンドアウトはどうだったか：4.6</p> <p>教え方はどうだったか：5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンピュータのじゅぎょうなので, 日本語でかけます。</li> <li>• 先生はとてもいいです。くわしく おしえました。</li> <li>• 私はもう勉強しましたから。</li> </ul>
<p>(特別指導)</p> <p>特別指導はどうだったか： 4.6</p> <p>特別指導は多かったか： ちょうどいい2人, 少ない3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とくべつしどうは ひつようです。</li> <li>• 先生はもっとくわしくおしえたほうがいいとおもいます。いまのとくべつしどうの内容はすくない。時間もすくない。</li> <li>• これは一番好きな授業です。</li> </ul>
<p>(スタディ・エクサクション)</p> <p>見学は楽しかったか： はい5人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい5人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい5人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• そのぼしょへ いったことがないので, たのしかったです。</li> <li>• みんなと いっしょが たのしい。</li> </ul>
<p>(ホームステイ)</p> <p>ホームステイは楽しかったか： はい5人</p> <p>時期は適当だったか： はい5人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ごかぞくが しんせつに してくれましたから, たのしかったです。</li> <li>• いい経験。</li> <li>• すべて。</li> </ul>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たのしかったです。</li> <li>• とてもおもしろい, たのしかったです。</li> <li>• おもしろかったです。</li> <li>• いいと思います。</li> <li>• じゅぎょうは とても みじかいですから, なにも はなせませんでした。</li> </ul>

<p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う 5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•日本の せいかつに なるために、日本のふんかを しらなければならない とも思います。</li> <li>•はい、とてもたいせつだ とも思います。日本にすんでいますから、もっと べんきょうした ほうがいととも思います。</li> <li>•日本の せいかつに なるために、日本のふんかや日本語などを わからなければなりません。</li> <li>•授業の内容は多いですから。</li> </ul>
<p>(口頭発表プロジェクト) プロジェクトはたいへんだったか： たいへん1人、ふつう2人、かんたんだった1人 未提出1人 発表会は役に立ったか： 5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•とてもよかった。</li> <li>•とてもたのしかった、そして、だいじです。</li> <li>•とてもたのしかったです。</li> <li>•すこしいへんだった。しかし、たのしかったです。</li> </ul>
<p>(その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•私は日本へくるまえに日本語がぜんぜんわかりませんでした。日本語授業で日本語をべんきょうしてから、日本語がはなせるようになります。</li> </ul>

本コースが役に立ったかという問いでは、第32期は5段階評価の5点、第33期は4.8点と評価が高かった。また、自己の日本語の上達度についての問いにも、全員が「とても上達した」「上達した」あるいは「少し上達した」と答えており、これらの点から受講者のコースに対する満足度は高かったということがうかがえる。しかしながら、スケジュールについては、「忙しすぎる」「忙しい」との回答が圧倒的に多かった。既に実験や研究を開始して忙しい学生もおり、毎日1限から4限まで続く集中コースでの学習が大変だと感じられたのであろう。

日本語の授業についての問いでは、第32期は4.8点、第33期は5点と高い評価が得られた。また、教科書・ハンドアウト・教師の教え方についても、高い評価が得られた。自由意見では、ハンドアウトが多くて整理が大変だったというコメントがあった。以前にも、環境の観点から紙の使いすぎはよくないと指摘があった。なるべく紙を使用しない方法を検討する必要がある。

また、テストについても第32期は4点以上、第33期はすべて4.6点以上と高い評価が得られた。テストの実施回数は6人が「ちょうどいい」と回答した学生が多かった。一方、これまでの期と同様に聴解テストの音声に対する不満が見られた。第33期終了後、聴解テストの改訂を行い、一部問題を見直すとともに、CDで音声を流せるようにした。

宿題についても、第32期は4.7点、第33期は4.8点と高い評価が得られた。また、毎学期宿題の量が多いという評価が多いが、今回は「ちょうどいい」と回答した学生が多く、「宿題があると復習できる」のように、宿題に肯定的な学生も見られた。

コンピュータの授業についても、第32期は4.8点、第33期は4.6点と高い評価が得られた。自由意見では、詳しく指導した教師に感謝するコメントや、学習内容がすでにマスターしていることや、さらに高度な操作を教えてほしいという希望も見られた。口頭発表プロジェクト関しても、第32期は4.2点、第33期は5点と高い評価が得られた。自由意見からも、プロジェクトの意義や有効性を受講者自身が感じ取ることができていると言ってよいだろう。

特別指導については、第32期は4.8点、第33期は4.6点と評価が高かった。昨年度に引き続き、特別指導に対する満足度が高く、さらに時間を増やしてほしいという意見が見られた。

スタディ・エクスカージョン、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても全般的に高い評価が得られた。スタディ・エクスカージョンとホームステイは、日本の文化や習慣を直接体験できる場として、また日本事情の授業は、日本語のクラスで学んだ日本語を実際に運用できる場として、お互いの文化を学ぶ場として、とらえられているようである。

## 8 コース改善に向けて

コース評価および定期テストの点数等を参考に、初級クラス学期末講師ミーティング（第32期は2015年8月5日、第33期は2016年2月18日開催）において、改善策を検討した。話し合いの結果、以下の2点を実施することとした。

### (1) 語彙テストの改訂について

- ①語彙テストの訳語は原則『文法解説書』の訳語に合わせる。ただし、中国語の訳語について翻訳ソフトで同じ語彙（字体）が出てこない場合はこの限りではない。
- ②語彙テストのレイアウト（訳語の載せ方）について、1ページ目は上下に英語・中国語の訳語にし、2ページ目は上下に英語・フランス語の訳語にする。

### (2) 『みんなの日本語Ⅱ』の指導内容について

下のレベルのクラスでは学生のレベルにあわせ、扱う文型と扱わない文型を決め、メリハリを付けた授業を行った。今後の授業のため、それらの文型をリスト化することにした。

## 9 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2016年3月に第33期生を送り出した。これまでに文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて205人がこのコースを修了している。

日本語研修コースは、日本語課外補講との合同授業を行ってきた。第32期、第33期では、両方のコースにおいて初級文法クラスが開講できたため、学習者の日本語レベルの差に対応することができた。初級クラスでは、日本語が既習か否か、漢字圏学習者か非漢字圏学習者かで授業の難易度や進度が異なるため、学習者に対し細やかな指導をすることができた。しかし、昨今の大学を取り巻く状況から、このような手厚い指導を続けるのはむずかしい。今後は、国際交流センターの他の日本語プログラムとも連携をとりながら、より効率化を図っていかなければならない。